

# 第6学年1組 総合的な学習の時間 学習指導案

令和2年

(略)

児童数

(略)

指導者

場所

体育館

## 1 単元名 ラグビー・オリパラブームをおこそう！Ⅱ

～次の競技はこれ！パネルディスカッションをしよう！～

## 2 児童の実態と本単元の意図

### (1)児童の実態

(略)

### (2)教材について

令和3年7月23日から8月8日に東京都を中心にオリンピック競技大会が開催される。また、令和3年8月24日から9月5日に、同じく東京都を中心にパラリンピック競技大会が開催される。新型コロナウイルス感染症の影響によって予定より約1年延期されたが、来年の開催に向けて、日本中が奮闘している。4年に1度のオリンピック・パラリンピックの身近な地域での開催、さらに特殊な状況下での約1年の延期ということから、児童の興味・関心が非常に高い学習材である。

また、オリンピック・パラリンピックは、児童が様々な教科の視点から分析するのに適している。参加する国の言語や言語文化を捉える国語科の見方・考え方、世界の国やスポーツの人口や歴史、文化に着目する社会科の見方・考え方、運動の特性という体育科の見方・考え方等、様々な教科の見方・考え方を探究的な学習のなかで総合的に活用することができる。このことから、総合的な学習の時間ならではの視点である「探究的な見方・考え方」を児童が働かせ、目指す資質・能力を育成するのに最適な学習材であると考えられる。

### (3)指導について

本単元では、学習のゴールを「パネルディスカッションで、よりよいオリンピックにするための新競技を提案しよう」とする。オリンピックの目的は、オリンピック憲章（1996）に「あらゆる場でスポーツを人間の調和のとれた発育に役立てること」「人間の尊厳を保つことに重きを置く平和な社会の確立を奨励すること」と記されており、この目的を実現するためにどんな新競技を取り入れたらよいのかを、2～3人のグループで探究していく。パラリンピックも含めると、目的や競技の幅が広がりすぎてしまうことから、本単元ではオリンピックを中心に考えていく。また、新競技を紹介する場として、国語科で「主張を明確にする」という目標のもとに学んだパネルディスカッションを設定し、単元を通して国語科における「言葉による見方・考え方」を働かせられるようにする。児童は国語科での学習の際に、自分の主張に説得力をもたせるための根拠のまとめ方を学習しており、その視点はオリンピックの新競技の情報を集める際のよい手助けになると考える。そして、学習のゴールであるパネルディスカッションでは、教科等横断的な視点で考えた根拠をもとに、どのグループも説得力のある新競技の紹介ができるようにしたい。

総合的な学習の時間の探究的な学習過程については、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という流れが「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編」に示されている。本単元でもこの流れで探究的な学習を進めていくが、学習過程を児童が自由に往復できるよう柔軟な流れにしていく。例えば、「整理・分析」の場面で情報が足りないことが分かれば、そのグループは一度活動を戻り、短時間でも「情報の収集」ができるようにする。その分、時間が足りなくなる場面が出てくることが考えられるが、学習のゴールに向けて柔軟に工夫できるようにする。

「課題設定」の場面では、オリンピックの目的とそこで行われる競技について確認するとともに、約1年間延期となり、開催されても感染症対策で様々な制限が加えられるオリンピックをどのように盛り上げていくべきかを話し合う。そのなかで、「オリンピックをよりよくするための新競技を友達に紹介する」という学習のゴールを児童とともに設定する。また、学習のゴールに向かってどのように探究的な活動を進めていくべきかを児童とともに話し合い、学習計画表を作成し、見通しを共有する。児童とともに課題を設定し、見通しをもたせることで、主体的な学びとなるようにしたい。

「情報の収集」の場面では、まず競技の情報を集め、どんな競技を取り入れたらよいかをグループごとに考える。次に、取り入れたい競技がオリンピックをどうよりよくするのか、その説明の根拠となる情報を集める。この際に、児童の教科等横断的な見方・考え方をよりよく働かせたい。想定しているのは以下のような見方・考え方と根拠である。

#### (例)

国語科・外国語科…言語・言語文化 等

→言語が違う国で共通して盛んな競技を取り入れれば、様々な言語が混じりあい、国際協調につながるのではないかな

算数科…競技で扱う単位 等

→いつもはちがう単位で生活している国同士がこの競技で単位を統一すれば、国際協調につながるのではないかな

社会科…国や競技の歴史や特色、競技人口、民族と文化、気候 等

→競技人口が少ないこの競技を取り入れれば、ある国の文化が世界に知られるのではないかな

→戦争を繰り返してきた国の、どちらでも盛んな競技を取り入れれば、関係の改善につながるのではないかな

理科 …生き物、環境、地形 等

→どんな地形・環境に住んでいる人でも、平等に参加できる競技にすればよいのではないか

音楽科…国歌やテーマ曲 等

→競技の中で国歌や平和のテーマ曲が流せるこの競技なら、世界の平和につながるのではないか

体育科…運動の特性 等

→この競技なら、体格差などに実力が左右されず、平等で楽しく競技ができるのではないか

これらの見方・考え方を児童がすべて自力で働かせるのは難しく、難易度が高い学習であることが予想されることから、各教科ならではの着目する視点は教師が示す。また、それ以外にも、情報を集め分析する際に、国語科の情報を取捨選択する活動や算数科のグラフやデータを読み取る活動を想起させ、学びが深まるようにしていく。つまりしている児童には、課題に合った教科の視点を具体的に伝え、思考を焦点化させる。

「整理・分析」の場面では、思考ツールを活用してグループ一人一人が集めた情報をつなげ、自分たちの主張の根拠をまとめていく。思考ツールは個別の知識をつなげ、それらを1つの構造化された知識にしやすくするという働きをもち、適切に使うことができれば深い学びの実現につながる。また、教科等横断的に様々な知識をつなげる大きな手立てとなるため、児童には目的意識をもって適切に思考ツールを活用させたい。そこで、活用する思考ツールは児童に選ばせ、目的意識をもって情報を整理させるようにする。そして整理した情報をもとに、自分たちが主張する新競技の根拠を導き出させていく。つまりしている児童には、単元のゴールを再確認させ、グループの目的に合った思考ツールを紹介する。そして、目的のためにどのように情報を「整理・分析」していくか、見通しをもたせる。

「まとめ・表現」の場面では、自分たちのグループの主張を原稿にまとめたり、説明に必要な資料を作ったりしながら、分かりやすく説得力のある紹介ができるように準備をする。パネルディスカッション後には、探究するためのどんな力が身に付いたか、オリンピックや世界をどのような視点で見ることができるようになったか等を振り返り、生活の場面へとつなげたい。そして、来年に延期されたオリンピック・パラリンピックを自分事として捉えられるようにしていきたい。

本時では、児童一人一人が各教科の見方・考え方を働かせて集めた情報をグループで整理・分析する活動を行う。集めた情報をあらかじめ付箋に書かせておき、授業の前半は思考ツールを自分たちで選んで整理・分析をし、主張の根拠を導き出す。後半には他のグループがまとめた思考ツールと根拠を見て、教科等横断的な視点で褒めたり、根拠探しのアドバイスを付箋に書いたりして、情報やよりよい考えを共有する。最後に、本時の学習が生活の場面でどう生かせるかを振り返るとともに、次時への意欲付けをする。

### 3 研究主題との関わり

研究主題 幅広い学習や生活の場面で活用できる力を育む  
～教科等横断的な指導を通して～



仮説1 意図的に活用場面を設定すれば、習ったことを生活場面で活用できるようになるだろう



手立て① 探究的な学習でどんな力が身に付いたかを毎時間自覚させる



具体的な方法  
・振り返りで、学習が生活の場面でどのように生かせるかを考えさせ、学びを実感させる。

仮説2 いろいろな教科が関わることで、生活の場面で活用する教科の幅が広がるだろう



手立て② 各教科で身に付けた力や見方・考え方を自覚的に活用できるよう、考える視点を明確にする。



具体的な方法  
・国語科で「主張を明確にする」という目標で学んだパネルディスカッションを学習のゴールにする。  
・オリンピックをよりよくする新競技を紹介するために、教師が示した例をもとに教科横断的な視点でオリンピックや競技を分析し、情報を集め、主張の根拠とするようにする。  
・目的意識をもって思考ツールを活用するようにし、各教科の個別の知識をつなげさせる。

### 4 単元の目標

- ・今後のオリンピックをよりよくするための新競技について探求する活動を通して、スポーツの価値や海外文化の多様性等についての理解を深め、オリンピックに関する自分なりの概念を形成することができる。  
【知識及び技能】
- ・探究課題に対して、多面的な視点から繰り返し関わりながら課題を発見したり、関連付けや比較等を行いながら整理・分析したりすることができる。  
【思考力、判断力、表現力等】
- ・オリンピックに関する自分なりの概念を形成するとともに、学習を国際社会や地域社会で活動していくための貴重な経験にし、今後の自らの生活や行動に生かすことができる。  
【学びに向かう力、人間性等】

### 5 単元の評価規準

| 知識・技能  | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |
|--|--|--|
| ①オリンピックの意義やそれに関わる人々の思い、スポーツの特徴や価値、海外文化等について理解している。 | ①オリンピックを教科等横断的な視点でとらえ、課題を明らかにしている。                       | ①課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、主体的に探究的な活動に取り組もうとしている。     |
| ②課題を解決するための過程（プロセス）を理解し、学習に見通しをもって取り組んでいる。         | ②自己の課題解決に必要な情報について、手段を選んで多様な視点・方法で収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。 | ②オリンピックに取り入れる新競技について探求する活動を通して、他者と協働し、課題解決をしようとしている。 |
| ③自己の課題について、本やウェブ                                   | ③課題解決に向けて必要な情報を  |  |

|   |   |  |
|---|---|--|
| <p>ブサイト等から必要な情報を適切に収集している。</p> <p>④探究活動を通して、オリンピックについて自分なりの概念を形成している。</p> | <p>取捨選択し、複数の情報を比較したり関係づけたりしながら考えをまとめている。</p> <p>④よりよいオリンピックに向けた新競技について、根拠を明確にし、説得力のある発表をしている。</p> | <p>③探究活動を通して、自己とオリンピック・国際社会・地域社会を結び付け、学びを今後の生活や行動に生かそうとしている。</p> |
|---|---|--|

6 指導と評価の計画 (12時間扱い) 本時 6/12時

| 過程  | ○主な学習活動 ●学習内容   | ・指導上の留意点 ★評価(評価方法)   | 時数 |
|---|---|--|----|
| 課題の設定   | <p>○東京オリンピック2020について知っていることを話し合う。</p> <p>○なぜオリンピックが開かれてきたのかを考える。</p> <p>●オリンピックの目的</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>オリンピズムの目標は、あらゆる場でスポーツを人間の調和のとれた発育に役立てることにある。またその目的は、人間の尊厳を保つことに重きを置く平和な社会の確立を奨励することにある。</p> <p>『オリンピック憲章』1996</p> <p>(財)日本オリンピック委員会</p> </div> <p>○オリンピックではどんな競技が行われるのか、どんな競技がないのかを話し合い、確認する。</p> <p>○オリンピックが延期となったが、よりよい東京オリンピックにしようと努力している人々がいることを知る。</p> <p>●学習の見通し</p> | <p>・2021年に行われる東京オリンピック2020に向けて、日本でどのような変化が起きているかを生活の場面等から想起させ、オリンピックを身近に感じさせる。</p> <p>・オリンピック開催の目的について「オリンピック憲章」をもとに明確にし、探究活動において常に意識させるようにする。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症対策として、オリンピック委員会の具体的な計画を紹介する。</p> <p>・学習のゴールや学習計画を児童とともに考えることで、主体的な学びにつながるようにする。</p> | 2  |
| <p>[学習のゴール]</p> <p>パネルディスカッションで、よりよいオリンピックにするための新競技を提案しよう</p> |   |  |    |
|   | <p>●探求のプロセス</p> <p>○一人一人がオリンピックに取り入れたい競技を考える。</p> <p>○一人一人の課題をもとに、友達と2~3人グループをつくる。</p>  | <p>・総合的な学習の時間におけるプロセスである、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の流れを確認し、学習の見通しをもたせる。</p> <p>★主①(観察・振り返りの記述)</p> <p>★知技①②</p> <p>(ワークシート・振り返りの記述)</p>   |    |
| 情報  | <p>○オリンピックに関する情報を集め、自分たちが取り入れたい競技を決める。</p>  | <p>・情報だけをなんとなく集めている児童には、調べるキーワード等を伝える。</p>   | 3  |

|   |   |   |          |
|---|---|---|----------|
| <p>の<br/>収<br/>集</p>                              | <p>○自分たちが取り入れたい競技が実際にオリンピックで行われると、どのようなよさがあるのかを各教科の視点や考え方を生かして調べる。</p> <p>●情報収集の仕方</p> <p>●各教科の見方・考え方の働かせ方</p> <p>【国語】…情報の取捨選択の仕方<br/>言語や言語文化等（調べる視点）</p> <p>【算数】…データ、グラフの分析の仕方<br/>競技で使われる単位等（調べる視点）</p> <p>【社会】…各国の歴史や特色、競技人口、民族と文化、気候等（調べる視点）</p> <p>【理科】…生き物、環境、地形等（調べる視点）</p> <p>【音楽】…国家やテーマ曲等（調べる視点）</p> <p>【体育】…運動の特性等（調べる視点）</p> <p>【道徳】…国際理解、国際親善の考え方</p> <p>【外国語】…外国の言語文化等（調べる視点）</p> | <p>・各教科の見方・考え方がよりよく働くように、教科ごとに具体的な視点を示して掲示する。</p> <p>・各教科の見方・考え方をもとに、ある程度の仮説を立ててから調べさせる。</p> <p>★思判表①（ワークシート）</p> <p>・情報はよく吟味させ、取捨選択をするよう声かけをする。</p> <p>★思判表②（ワークシート）</p> <p>★知技③（ワークシート・振り返りの記述）</p> <p>・集めた情報は付箋にまとめておき、「整理・分析」の際に思考ツールで活用する。</p> |          |
| <p>整<br/>理<br/>・<br/>分<br/>析<br/><br/>本<br/>時</p> | <p>○収集した情報を整理・分析する。</p> <p>●情報を整理・分析する方法</p> <p>●思考ツールの使い方</p> <p>○一人一人が収集した情報を、グループで思考ツールを活用しながらまとめる。</p> <p>○収集した情報をもとに、自分たちの主張の根拠となるデータや資料を整える。</p> <p>○自分たちが情報収集した各教科の視点や考え方をもとに、他のグループと情報共有をする。</p>  | <p>・目的意識をもって活用できるよう、思考ツールは自分たちで選ばせる。そのために、今までの各教科の学習で活用した思考ツールとその働きを掲示する。</p> <p>★知技①（ワークシート・振り返りの記述）</p> <p>★主②（観察・振り返りの記述・ホワイトボード）</p> <p>★思判表③（観察・ホワイトボード）</p>   | <p>3</p> |
| <p>ま<br/>と<br/>め<br/>・<br/>表<br/>現</p>            | <p>○パネルディスカッションに向けて、グループで主張の原稿を書いたり、説明の資料を作成したりする。</p> <p>●説得力のある主張の仕方</p> <p>○「よりよいオリンピックにするための新競技」という論題で、パネルディスカッションを行う。</p> <p>●パネルディスカッションの仕方</p> <p>○オリンピックと自己との関わりを考えさせ、単元の学習の振り返りをする。</p>  | <p>・国語科の学習を想起させながら、分かりやすく主張が伝わる文章の工夫を考えさせる。</p> <p>★思判表④（発表原稿・発表）</p> <p>★知技④（ワークシート・振り返りの記述）</p> <p>★主③（振り返りの記述・発表）</p> <p>・学習材であるオリンピックの感想だけでなく、学習内容についての振り返りを意識させる。また、それを生活の場面でどう生かせるかを考えさせる。</p>  | <p>4</p> |

7 本時の学習指導（6/12時）

(1)本時のねらい

- ・課題解決に向けて必要な情報を取捨選択し、複数の情報を比較したり関係づけたりしながら考えをまとめることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・オリンピックに取り入れる新競技について探求する活動を通して、他者と協働し、課題解決をすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

(2)本時の展開

| 学習活動   | 学習内容  | ○指導上の留意点（配慮・手立て） ◎評価<br>☆教科等横断的 ★生活の場面   |
|--|---|--|
| 1 本時の課題を確認する。                                  |   | ○教師が課題を提示するのではなく、学習計画表から児童が課題を確認し、見通しをもてるようにする。  |
| 情報を整理・分析して、新競技のよさをまとめよう                        |   |  |
| 2 本時の学習の進め方を確認する。                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の進め方</li> <li>・思考ツールを使った整理・分析の仕方</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習の流れを簡単な順序で提示する。</li> <li>○教師が作った、思考ツールでまとめた例を提示し、「①思考ツールで情報を整理・分析②新競技のよさをまとめる」という流れを確認する。思考ツールにまとめることが目的にならないようにする。</li> </ul>  |
| 3 思考ツールを活用しながら、グループで情報を整理・分析し、新競技のよさをまとめる。     | <p>自分たちの考える新競技のよさは、どんな教科の視点に立っているのかな</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報を整理できれば、結論を導く働きがない思考ツールでもよい。（例 ベン図 Xチャート）</li> <li>☆競技のよさをまとめる際には、教科の視点を明らかにしながらまとめさせる。</li> <li>◎課題解決に向けて必要な情報を取捨選択し、複数の情報を比較したり関係づけたりしながら考えをまとめている。（観察・ホワイトボード）</li> </ul> |
| 4 他のグループがまとめたホワイトボードを見て、良い所とアドバイスを付箋に書き、張り付ける。 | <p>他のグループが考えている新競技のよさは、どんな教科の視点に立っているのかな</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○青い付箋は情報、赤い付箋は競技のよさを書く。</li> <li>○今までとは違う色の付箋を使用し、他グループの意見が一目で分かるようにする。</li> <li>☆他のグループがどのように教科の視点を活用しているかをしっかり確認させる。</li> </ul>   |
| 5 自分たちのホワイトボードに貼ってある友達からの付箋を確認する。              |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎オリンピックに取り入れる新競技について探求する活動を通して、他者と協働し、課題解決をしようとしている。（付箋・観察）</li> </ul>  |

|  |   |   |
|--|---|---|
| 6 課題解決のために、次回<br>はどんな活動をするか、<br>グループで話し合う。 |   | ○探究の学習過程は自由往復可能としているので、友<br>達のアドバイス等から「情報の収集」の段階に戻る<br>必要があるかを確認する。 |
| 7 グループでの活動の様子<br>を全体で共有する。                 | 今日、調べたこと<br>を整理・分析した<br>方法は、生活の場<br>面でどのように生<br>かせますか | ○思考ツールを効果的に活用しているグループや、教<br>科の視点が面白いグループを教師が紹介し、共有す<br>る。           |
| 8 本時の振り返りをする。                              |   | ★本時の探究的な学習が、生活の場面でどのように生<br>かせるかを考えさせる。                             |

(3)板書計画

|  |              |                         |         |
|--|--------------|-------------------------|---------|
| ラグビー・オリパラブームをおこそう！Ⅱ ～次の競技はこれ！パネルディスカッションをしよう！～ |              |                         |         |
| 学習計画表  | 本時の学習の<br>流れ | 思考ツールを<br>使った<br>まとめ方の例 | 思考ツール一覧 |

## 8 本単元で活用する思考ツール

思考ツールには、比較する、分類する、関連付ける、多面的に考える、統合化するという思考スキルを活用することによって、一つ一つの個別の知識をつなげ、それらを構造化させるよう思考を促すというよさがある。考えを促すためには、自由に考えるよりも、何らかの視点や制限を設ける方が効率的なことが多い。知識をつなげるという思考ツールの働きは、教科横断的な視点で情報を集め、つなげ、まとめていく際に役立つと考える。各教科固有の知識や視点を思考ツールでつなげることによって、教科横断的に課題を解決していることを児童が実感できる。この、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉えることが、総合的な学習の時間の学びを深いものにする「探究的な見方・考え方」である。そこで本単元では、教科横断的な視点をよりよく働かせ総合的な学習の時間の学びを深めるという目的で、単元を通して以下の思考ツールを積極的に活用していく。

